

あわら市のシンボル（花・木・鳥）（案） 提出された意見の概要と市の考え方

意見公募期間：平成20年12月22日～平成21年1月9日

対象	意見の概要	市の考え方	原案修正の有
木	<p>花の花菖蒲、鳥の白鷺は納得できますが、木はなんで？って感じです。どこにでもありすぎて、あわらを想像できません。</p> <p>和歌山のみなべ町や三方が梅というのならわかりますが・・・。</p> <p>柿や梨のほうが、あわらを想像できると思います。</p>	<p>梅は、旧金津町の木と花にも指定されていきました。</p> <p>また、市内では細呂木地区や北潟地区などに梅林が見られるほか、各家庭などでも庭木としても親しまれています。</p> <p>こうした理由などから、梅を市の木として採用したものです。</p> <p>なお、案の段階で、ご提案の柿や梨についても検討の対象となりましたが、これらはどうしても果物というイメージが強いこと、また、柿の木は折れやすいことなどから、最終的に採用は見送られました。</p>	無
鳥	<p>白鷺について、次のとおり意見を述べます。</p> <p>種としてあいまい</p> <p>白鷺は、全身の羽毛が白いサギ類の総称であり、シラサギという鳥はいない。従って、写真や絵で示す場合、種によって大きさや形、嘴の色などが様々であり、あいまいである。</p> <p>危険地帯からの渡り鳥</p> <p>水鳥の仲間であると同時に、これらは渡り鳥である。中国・東南アジアなど多様な国・場所からも渡ってきて、近年は鳥インフルエンザなど病原体を運ぶおそれなども指摘されている。</p> <p>公害のおそれ</p> <p>通常、森や林・竹やぶなどにサギ山を作り、繁殖地として営巣する。しかし、時として、住宅地に近い場所では、糞や匂い、鳴き声が公害となる場合がある。市の鳥として指定されていると駆除できないことも考えられる。</p>	<p>ご指摘いただきましたように、白鷺は白い鷺の総称で、白鷺という名の鷺がいるわけではありません。</p> <p>ただ、わが国では、この白い鷺を一般的にシラサギと呼称し、古くは姫路城の別称にもなっているほか、近年では北陸線の列車名にも採用され、愛されてきました。</p> <p>あわら市においても、北潟湖や竹田川などにコロニーを形成しているほか、明治の初期、芦原温泉がまだ葦の湿地帯であったころ、地下に息づく温泉の温かさから、この地で羽を休める白鷺の姿が多く見られたとも伝えられており、古くから身近な存在であったことが分かります。</p> <p>こうした理由などから、白鷺を市の鳥として採用したものです。</p> <p>なお、鳥インフルエンザの病原菌媒介の件や糞、鳴き声による公害に関しては、鷺だけがその原因となるものではないと考えます。</p>	無
花木鳥	<p>花菖蒲、梅、白鷺ともに、あわら市を端的にイメージできるシンボルだと思います。</p> <p>いろいろな機会に活用して、あわら市をPRしていただきたいと思います。</p>	<p>花、木、鳥のシンボルについては、市の印刷物やホームページなどでも積極的に紹介しながら、あわら市のイメージアップに役立てていきたいと考えています。</p>	無